

大志の学び舎

世田谷区立太子堂小学校



『教師は授業 家庭は愛情 地域で育つ 11年間』

躾と仕付け

校長 廣瀬 維謙

11月の目標

人格の完成を目指して
「フェア」

<安全>

- ・自転車の安全な乗り方を考えよう。

<保健>

- ・薄着ですごそう。

<給食>

- ・感謝して食べよう。

<あいさつ>

- ・相手の顔を見てあいさつをしよう。

秋が深まり、校庭の木々の葉も色付き始め、朝夕はめっきり冷え込むようになりました。現在学校では、11月15日（土）の「音楽会」に向けて、各学年で練習が始まっています。音楽会本番での子どもたちの活躍が楽しみです。

さて、「躾」という漢字は「身」を「美」と書き、広辞苑では「子どもなどに礼儀作法を教えて身に付けさせること。また、身に付いた礼儀作法。」とあります。日本人にとって躾とは、人として身を正しく美しく整えるもの、ひいては心を美しく正すものという意味に通じます。確かにきちんとした身なりで、しっかりとした礼儀作法が身に付いている人からは、心の美しさを感じます。そして、この礼儀作法は一朝一夕に身に付くものではなく長い時間かけて、家庭で丁寧にしつけられた結果、身に付くものです。

「躾」と同じ読みである「仕付け糸」とは、洋裁や和裁で仮縫いするときに、細い糸で型を整えるために使う糸のこと。この「仕付け糸」を使っての仮縫いがいい加減だと、立派な製品は仕上がりません。また、「仕付け糸」に太くて丈夫な糸を使うと完成したとき、布地に穴が開いてよい製品にはなりません。細い糸でまんべんなく丁寧にかけることが大切です。製品が完成したときには「仕付け糸」は取り外します。いつまでも製品に付いているわけではありません。

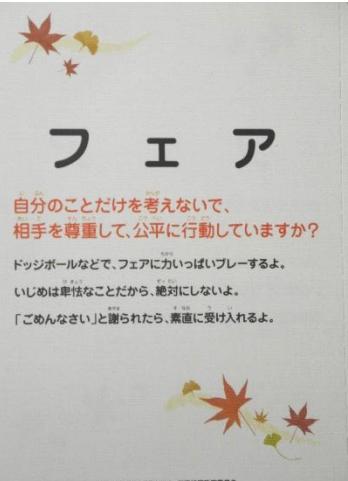
そう考えていくと、子どもへの「躾」も、この「仕付け糸」と同じ意味をもつように思います。御家庭では、乳幼児期からあらゆる場面の一つ一つに気を配り、丁寧に「仕付け糸」をかけてきたことだと思います。

一方、この「仕付け糸」を外すのは、外しても型が崩れる心配がなくなり、しっかりと形を保てるようになったときです。子どもの場合で言うと、礼儀作法や善惡の判断力が身に付き、自らを律することができるようになったときでしょうか。家族という「仕付け糸」があるうちに、子ども自身が本縫いの丈夫な糸でしっかりと縫える（心身を正しく整える）ようになることが大切です。

理想の「躾」とは、子どもをしっかりと自立・自律させるために、子どものありのままを受け止め、自己決定することを促す声掛けを、丁寧に時間をかけて、何度も繰り返し行っていくことだと考えます。

子どもたちのよりよい成長に向けて、これからも御家庭と学校、地域が連携してまいりましょう。

○学校関係者評価アンケートへの御協力、ありがとうございました。アンケート集計結果は学校関係者評価委員会にて検証し、後日お知らせいたします。



〒154-0004

世田谷区太子堂5-7-4

電話 03(3413)4621

FAX 03(3413)4799

Email: dai004@setagaya.ed.jp